

2022年3月期 第2四半期 決算補足説明資料



—やすらぎと安心の創造—

証券コード:5237

1.	2022年3月期第2四半期 連結決算の概要	P.3
2.	連結貸借対照表前期末比較	P.7
3.	連結キャッシュ・フローの状況	P.8
4.	連結経営指標（5年間推移）	P.9
5.	2022年3月期 連結業績予想	P.11
6.	ESG経営への取り組み	P.13
7.	トピックス	P.14

1. 2022年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-1 連結損益計算書前期比較

【前年同期比減収も、各段階利益は増益】

(金額:百万円)

	2022/3月期 2Q 実績		2021/3月期 2Q 実績		増減 (前年同期実績比)		2022年3月期 2Q 5/14発表予想値		増減 (5/14発表予想値比)	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率
売上高	10,043		11,211		▲1,168		10,000		+43	
営業利益	1,061	10.6%	927	8.3%	+134	+2.3pt	700	7.0%	+361	+3.6pt
経常利益	1,191	11.9%	941	8.4%	+249	+3.5pt	720	7.2%	+471	+4.7pt
特別利益	261	-	-	-	+261	-	-	-	+261	-
特別損失	45	-	128	-	▲83	-	26	-	+19	-
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,105	11.0%	518	4.6%	+586	+6.4pt	480	4.8%	+625	+6.2pt

1. 2022年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-2 売上高 [前年同期比11億68百万円減収の100億43百万円]

- 新型コロナウイルス感染症は未だ収束時期の見通しが立たず、長期化の様相を呈しております。国土交通省の建築着工統計調査報告によると、当四半期における民間非住宅全建築物の着工床面積は、全体では前年同期比増加傾向にあるものの、当社グループの主力商品である一般建築向け「アスロック」に影響が大きい商業ビル・宿泊施設等の計画は減少が続いております。
- 上記の状況のなか、当第2四半期の連結売上高は11億68百万円減収の100億43百万円となりました。当期より「収益認識に関する会計基準」を適用しており、これにより当第2四半期の売上高は2億72百万円減少しております。この影響を除くと、販売口売上高は前年同期並みの91億11百万円、工事口売上高は8億94百万円減収の12億4百万円となりました。

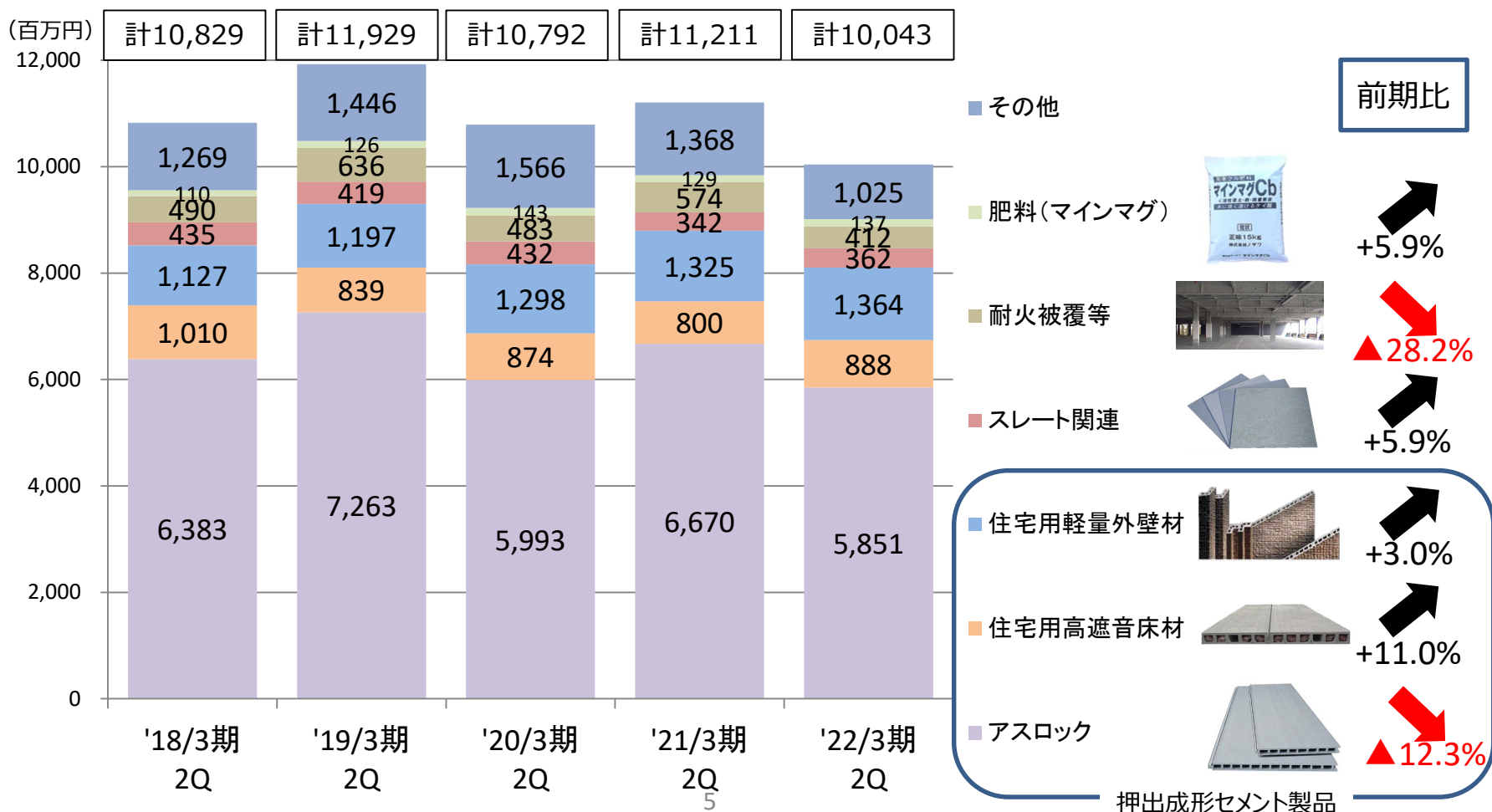
【品種別の状況】

- 主力の一般建築向けアスロック売上高は、2020年2月に発表した価格改定による増収効果があったものの、上記のコロナ感染症の影響を受け、前年同期比8億18百万円減収の58億51百万円となりました。
 - 住宅向け商品は、新設住宅着工戸数の回復もあり、「住宅用高遮音床材」及び「住宅用軽量外壁材」合わせて前年同期比1億27百万円増収の22億53百万円となりました。
 - ミネラル肥料「マインマグ」も、前年同期はコロナ感染症による農作物需要減の影響等から農業資材節減の動きが見られ販売が低迷しましたが、当第2四半期では需要が徐々に回復し、前年同期比7百万円増収の1億37百万円となりました。その他、スレート関連は前年同期比20百万円増収の3億62百万円、耐火被覆等は前年同期比1億62百万円減収の4億12百万円となりました。
- 品種別には上記のとおりですが、「収益認識に関する会計基準」の影響2億72百万円の減少を除いた販売・工事別の売上高は、販売口は前年同期並みで推移したものの、工事口は8億94百万円減収となり、主な減収要因となっております。(販売口・工事口は各品種それぞれに含まれております)

1. 2022年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-2 売上高 [連結品種別売上高推移]

- 【2022/3 2Q】高付加価値商品拡販に注力するもコロナ禍の影響により主力の「アスロック」は減収。住宅向け商品は需要回復等により増収、押出成形セメント製品合計では減収。



1. 2022年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-3 各段階利益

[営業利益 前年同期比1億34百万円増益の10億61百万円]

[経常利益 前年同期比2億49百万円増益の11億91百万円]

- 2020年2月発表のアスロック価格改定の効果や、高付加価値品「アスロックタイルパネル」が前年同期比137%増販、「工場塗装品」の販売も高水準を維持したこと等が増益要因となっております。
- また、NNPS（ノザワ・ニュー・プロダクション・システム）改善活動により工場における生産性が向上、これにより原燃料使用効率の改善や諸経費節減したこと等から、売上原価は前年同期比11億88百万円減少の65億96百万円となり、原価率は3.7pt低下の65.7%となりました。
- 販売費及び一般管理費については、輸送効率向上を図ったこと等により物流費が減少したこと等から、前年同期比1億14百万円減少の23億85百万円となりました。
- 営業外については、受取保険金58百万円の計上や為替差益41百万円の発生(前年同期は12百万円の為替差損)があったこと等により、経常増益の要因となりました。

[親会社株主に帰属する四半期純利益 前年同期比5億86百万円増益の11億5百万円]

- 特別利益は、前年同期は計上がなかったところ、当第2四半期では中国における連結子会社の清算終了により、為替換算調整勘定取崩益2億61百万円を計上しております。
- 特別損失は、前年同期比83百万円減少の45百万円。特別利益同様、子会社清算により関係会社清算損失20百万円を計上しております。
 - 当第2四半期は、受取保険金、為替差損益、為替換算調整勘定取崩益、関係会社清算損失の計上という特殊要因により前期比約3億53百万円の増益となりました。

2. 連結貸借対照表前期末比較

		(百万円)	
科目	増減額	科目	増減額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	+144	支払手形及び買掛金	▲171
受取手形及び売掛金	+43	未払法人税等	▲132
棚卸資産		賞与引当金	+14
商品及び製品	▲75	関係会社清算損失引当金	▲35
仕掛品	+2	その他	▲438
原材料及び貯蔵品	▲64	計	▲763
未成工事支出金	▲50	固定負債	
その他	+18	長期借入金	▲245
計	+18	退職給付に係る負債	+13
固定資産		その他	▲14
有形固定資産	▲66	計	▲246
無形固定資産	▲1	負債計	▲1,009
投資有価証券	▲8	純資産	
繰延税金資産	▲108	利益剰余金	+760
その他	▲108	其他有価証券評価差額金	▲7
計	▲293	為替換算調整勘定	▲183
		退職給付に係る調整累計額	+16
		非支配株主持分	+148
		純資産計	+734
資産計	▲275	負債純資産計	▲275

【総資産の増減】

総資産は前期末比2.7億円減少。主に棚卸資産が1.8億円、繰延税金資産1.1億円、それぞれ減少したこと等によります。

【負債の増減】

負債は前期末比10億円減少。主に支払手形及び買掛金が1.7億円、未払法人税等が1.3億円、長期借入金が2.4億円、それぞれ減少したこと等によります。

【純資産の増減】

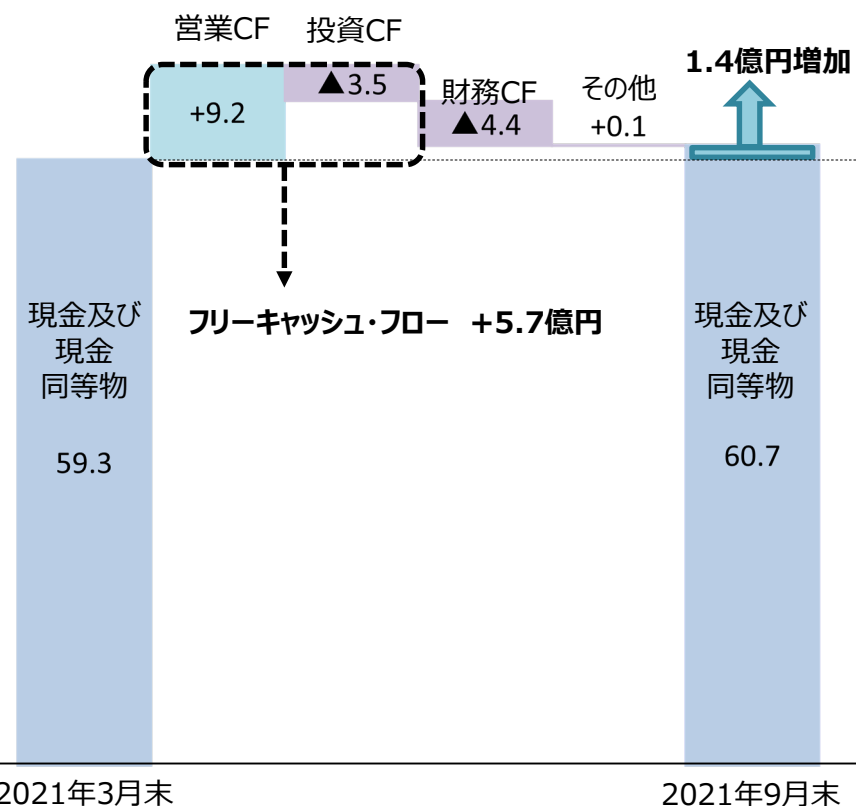
純資産は前期末比7.3億円増加。主に利益剰余金が7.6億円増加したこと等によります。

3. 連結キャッシュ・フローの状況

- 営業キャッシュ・フローは+9.2億円、投資キャッシュ・フローは▲3.5億円となり、フリーキャッシュ・フローは+5.7億円。財務キャッシュ・フローは▲4.4億円。
- 上記の結果、当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末比1.4億円増加の60.7億円。

【現金及び現金同等物の増減内訳】

(億円)



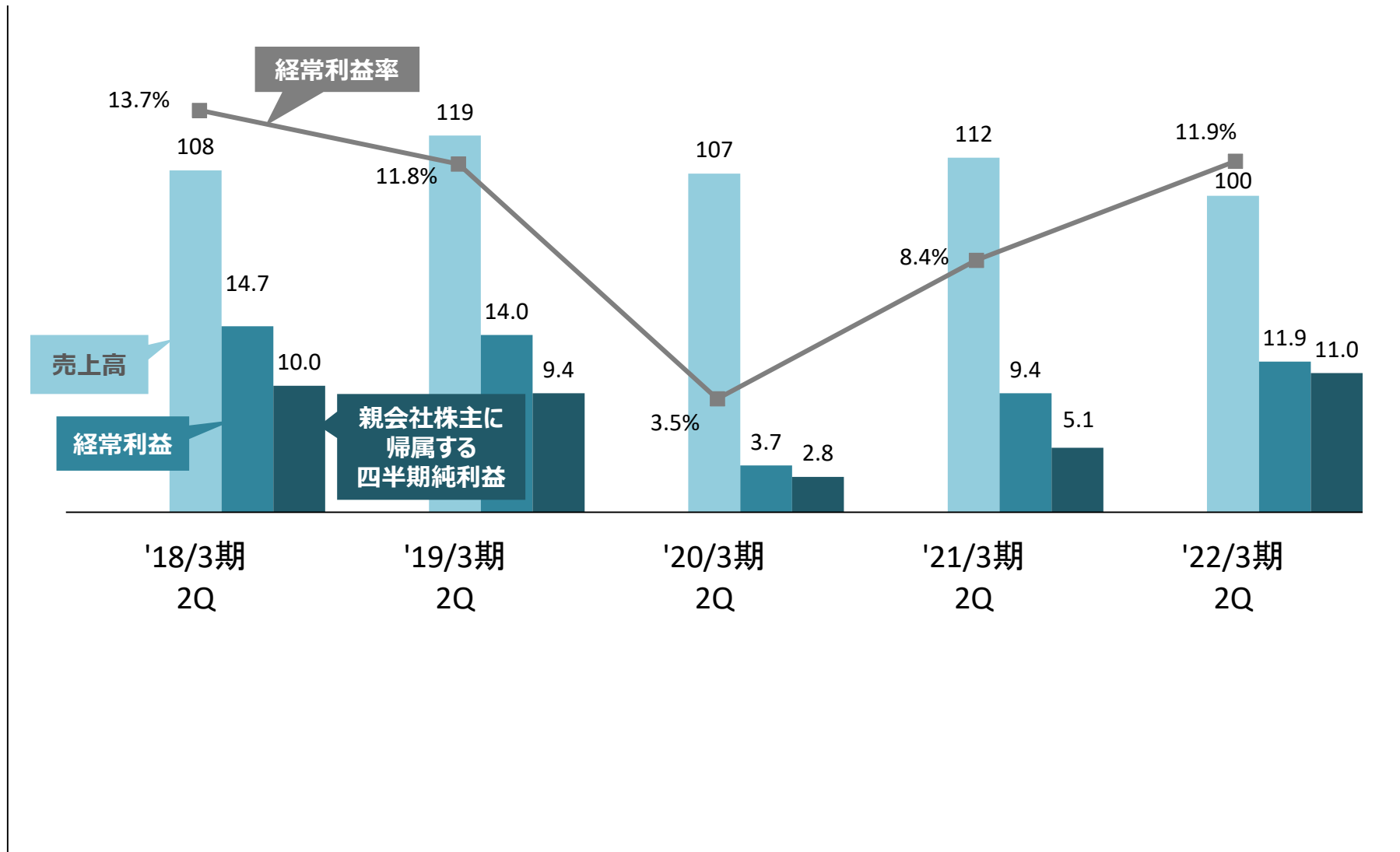
【連結キャッシュフロー計算書 概要】

(百万円)

項目	金額	備考
税金等調整前当期純利益	1,407	
減価償却費	354	
受取保険金	▲58	
為替差損益	▲40	
為替換算調整勘定取崩益	▲261	連結子会社清算による
仕入債務の増減額	▲176	
その他	▲300	
営業活動によるキャッシュ・フロー計	926	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲353	主に有形固定資産の取得
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲443	主に配当金の支払い

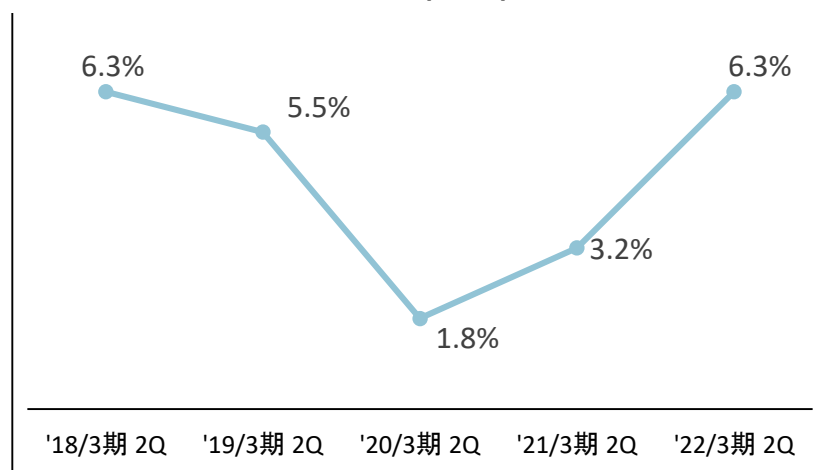
4. 連結経営指標推移 (第2四半期)

売上高、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円) 並びに経常利益率

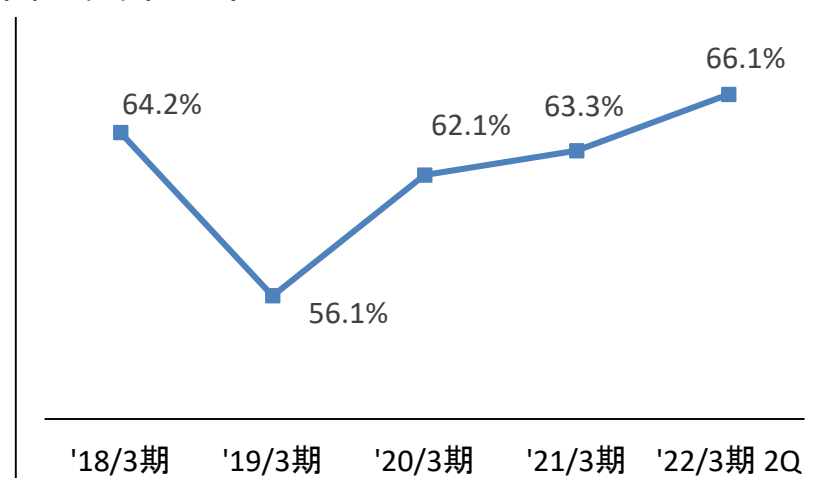


4. 連結経営指標推移 (第2四半期)

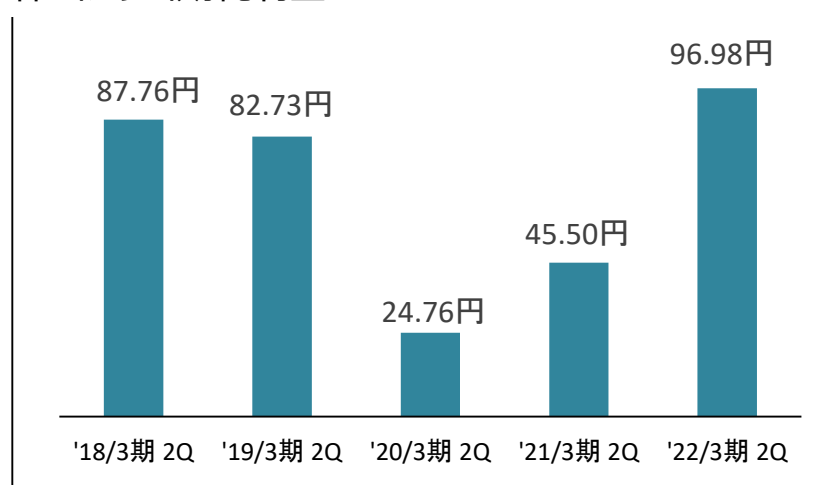
自己資本当期純利益率(ROE)



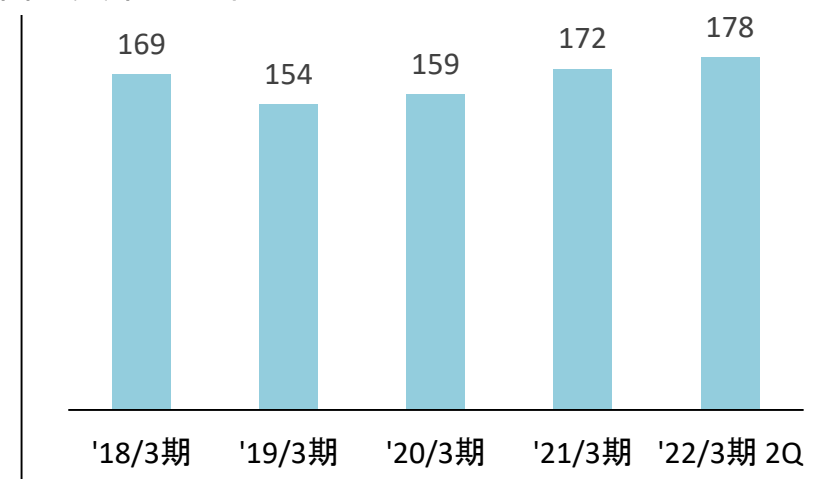
自己資本比率



1株当たり当期純利益



自己資本 (億円)



5. 2022年3月期 連結業績予想 (11月12日修正発表)



(金額:百万円)

	2022年3月期 今回予想値		2021年3月期 実績		増減 (2021年3月期実績比)		2022年3月期 5/14発表予想値		増減 (5/14発表予想比)	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率
売上高	20,400		22,394		▲1,994		21,000		▲600	
営業利益	1,880	9.2%	1,846	8.2%	+34	+1.0pt	1,580	7.5%	+300	+1.7pt
経常利益	2,000	9.8%	1,869	8.3%	+131	+1.5pt	1,610	7.7%	+390	+2.1pt
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,630	8.0%	1,262	5.6%	+368	+2.4pt	1,070	5.1%	+560	+2.9pt

5. 2022年3月期 連結業績予想 (11月12日修正発表)

【前期比】

- 第2四半期に引き続き、下期もコロナ感染症による新規建設計画の停滞等の影響が継続すると予測されることから、通期の売上高は前期比19億94百万円減収の204億円と見込んでおります。
- 利益面では、下期については第2四半期同様に生産性の向上によるコスト削減がある一方、原料価格の高騰、原油等資源高による電力、燃料費、物流コストの上昇等が見込まれることと、第2四半期の業績を踏まえ、通期では、営業利益は前期比34百万円増益の18億80百万円、経常利益は前期比1億31百万円増益の20億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比3億68百万円増益の16億30百万円となると見込んでおり、前期比減収増益となる見通しです。

【5/14発表予想比】

- 5/14予想時点では下期はコロナ感染症の影響から徐々に回復すると見込んでおりましたが、上記のように下期もコロナ感染症の影響が継続すると見込まれることから、通期売上高は前回発表予想比6億円減収と見込んでおります。
- 利益面では、上記の状況から通期の営業利益は前回発表予想比3億円増益、経常利益は前回発表予想比3億90百万円増益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想比5億60百万円増益と見込んでおります。

6. ESG経営への取り組み

当社は、中期経営計画**全社三大戦略プラスONE**を展開しESG経営への取り組みを推進してまいります。



- ・CO2排出量削減
 - ・再生可能エネルギー使用率向上
 - ・SBT認証取得
 - ・水使用量削減
 - ・排水管理の徹底
- ・廃棄物の削減
 - ・資源の再利用率向上
 - ・環境対応商品の普及
 - ・採用計画の達成
 - ・多様性確保
 - ・障害者雇用比率向上
- ・教育、研修機会の確保
 - ・クレームゼロ
 - ・施工品質向上
 - ・メンタルヘルス発病者ゼロ
 - ・残業時間数の削減
 - ・離職率の低減
- ・男性育児休暇取得率の向上
 - ・有給休暇取得率の向上
 - ・労働災害発生件数ゼロ
 - ・社会貢献商品の普及
 - ・施工パトロール実施率向上
- ・リードタイムの確保
 - ・購入原料の安定供給
 - ・輸送能力の確保
 - ・ESG情報開示
 - ・ESG主幹部署の活動
 - ・内部通報体制の開示

ESGで取り組むべき課題

E(環境)

- ・カーボンニュートラルの実現
- ・資源の有効利用及び保全と廃棄物削減
- ・製品を通じた環境貢献

S(社会)

- ・ダイバーシティの推進と人財育成
- ・製品サービスの品質向上
- ・人権尊重
- ・ワークライフバランスの推進
- ・労働安全の確保
- ・製品を通じた社会貢献

G(企業統治)

- ・サプライチェーンマネジメントの推進
- ・積極的な情報開示
- ・組織体制の整備・構築

7. トピックス –NNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)とは

NNPS (ノザワ・ニュー・プロダクション・システム) とは

■品質・コスト・納期の差別化を推進

1983年、トヨタ生産方式を源流とする「NPS研究会」に入会し、ノザワの改善手法としてNNPS (ノザワ・ニュー・プロダクション・システム) を確立し、改善活動を通じて、品質・コスト・納期の差別化を推進しています。

NNPSによりマーケティング～開発～設計～生産～納品～資金回収～アフターサービスまでの全体工程のリードタイムを短縮することで、トータルコストを下げ、無駄な在庫や経費を削減し、競争力強化を実現します。

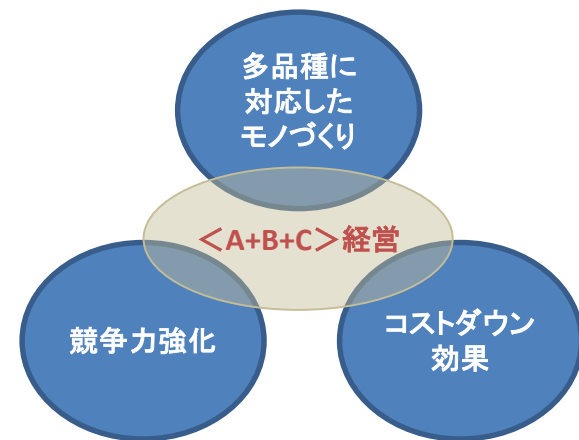
このスパイラル的企業活動をスリム化することを<A+B+C>経営と称し、NPS経営思想のコアとなっています。

社長NNPS基本4方針

- ・各工程での品質の造り込み
特に川上工程での品質造り込み
- ・真因の追求 何故5回
- ・時々刻々問題の顕在化と改善
- ・問題発見解決型の人財育成



全社・全部門・全社員で改善活動を実践します。



7. トピックス – 「アスロック」 新商品 2 種を発売

「アスロック」発売 50 周年 企画第 1 弾として 新商品 2 種を発売！

2021年3月 おかげさまで押出成形セメント板「アスロック」は
発売50周年を迎えることができました。



2021年8月発売

WOOD design series

彩実 (あやざね)

－ 杉・板目－ 意匠登録出願済

アスロックに、リアルな木目を再現した
「ウッドデザインシリーズ」が加わりました。



＼タイルを用いない意匠一体化パネル／

Grid design series

バンブーボーダー

意匠登録出願済

要望の多いボーダー調タイルをモチーフとし、
竹の節を連想するデザインを再現しました。

2021年12月発売



7. トピックス – ミネラル肥料マインマグ公式SNSの開始

ミネラル肥料「マインマグ」の公式SNSを2021年5月より開始！



地域別の6つのアカウントでマインマグ施用事例や生育状況などをタイムリーに提供しています。



北海道 道央 道北
@minemg_official_18



本州 東日本
@minemg_official_07



北海道 道東
@minemg_official_19



本州 中日本
@minemg_official_56



北海道 道南
@minemg_official_03



本州 西日本
@minemg_official_04



マインマグの使い方や利点を動画で紹介しています。



<https://www.youtube.com/channel/UC3EtW9-9qiTmtQOTLFEyswg>

7. トピックス – ふらの便り

フラノ事業所（北海道）グランドでの花畑作り（2021年）

山部商工会様のご協力を得て、フラノ事業所内の花畑予定地約3,000㎡に、「夏りんぞう」という品種の「ひまわり」を植えました。
今後も地域活性化に向けた取り組みを通じて、地域社会へ貢献してまいります。



2021年7月下旬 ヒマワリが満開となりました

国道38号沿いのフラノ事業所の敷地で咲き誇るヒマワリ

猛暑ヒマワリもう満開 山部の国道沿い

【富良野】ミネラル肥料を製造・販売するノザワフラノ事業所(市内山部東町)の国道38号に面した敷地で、「夏りんぞう」と呼ばれる茎が短い品種のヒマワリが満開を迎えている。同事業所は2015年から、地域コミュニティ活性化の取り組みとして花畑用に敷地3千平方メートルを提供。NPO法人山部まちおこしネットワークの協力を得て、1年目はキカラシとコスモスを咲かせ、16年からはヒマワリ畑を継続している。今年は5月下旬に整地し、6月上旬に種をまいて除草なども行ってきた。ヒマワリ畑の道路側にのほりを立て、富良野消防署山部出張所裏の敷地が駐車場となっている。花畑への立ち入りも可能で、同事業所の永井信所長は「8月の盆明けごろピークを迎えるように種をまいたが、今夏は高温で生育が早まった。見ごろは今いっぱい」と話している。(福元久幸)

ひまわり畑作りの取り組みが北海道新聞（2021.8.3掲載）にて紹介されました。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。